

第26回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和7年2月22日（土） 午前10時30分～12時00分
- 2 開催場所 市民会館・萌え木ホール
- 3 参加者 市長及び市民9名
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 市長あいさつ（小金井市における平和に関する取組について）
  - (3) 懇談（テーマ「平和について」）
  - (4) 閉会

5 懇談内容要旨

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
1	<p>先ほど、白井市長からこがねいデジタル平和資料館完成発表会について御紹介いただきました。私は、それを担当しております市民団体の小金井平和の日市民イベント実行委員会の代表を務めております。</p> <p>最初に宣伝なのですが、小金井市と協働して、今こがねいデジタル平和資料館という名前のホームページをつくっています。これは、戦争体験者の皆様にインタビューをした映像動画と、戦争体験の手記といったものです。広く世に出回っていて読まれているというものは少なく、市民文集などで出回っている部数も少ないため、大変貴重な記録の手記となっています。そういうものが埋もれているので、私どものほうで取り寄せまして、それをホームページに貼り付けて、皆さんに御覧いただくという取り組みです。</p> <p>それから、小金井の中では、さきの戦争の中では大きな空襲の被害はなかったんですけども、それでも戦争に関係するような軍事施設とか軍需工場、そういったものが結構あるんです。私たちのまちには、過去にどういうことがあったんだろうということを皆さんに知っていただくためにも、そういった戦跡史料も掘り起こしまして、このホームページに貼り付けています。そういった内容を通して、過去の戦争の悲惨さの記憶を、私どももしっかりと記録に残して、我々及び子どもたちの世代に伝えていって、やっぱり戦争は駄目なんだよね、命と平和をしっかりと守って伝えていこうねと、そういうような、共通の認識をつくるための一つの手段として、このホームページの取組をしているということなんです。</p> <p>3月15日の土曜日に、今つくっているホームページが出来上がりますので、宮地楽器の小ホールで発表会を行います。東京大空襲センターの学芸員である講師の方をお招きいたしまして、インタビューに御協力いただいた戦争体験者の皆様、それから、こういった運動そのものがどういう意味を持つのかというようなことについて、お話を伺います。</p> <p>そういうプログラムになっておりますので、どうぞ皆様にお越しいただきたいという宣伝です。</p>	<p>お話いただきまして、ありがとうございます。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
2	<p>10年前に、東京大空襲が起きた3月10日の日を、「小金井平和の日」として条例で制定しましたが、ちょうどそのときが、10年前というのが戦後70年でした。そのときに、戦争体験者が少なくなってきたから、戦争の記憶を若い市民の皆さんに伝えていただくということで、語り部がいましたら御協力をお願いいたしますと、市民の皆さんに呼びかけたんです。そうしたら、戦争の語り部として10人の方が協力できると市のほうに登録されました。例えば学校現場、あるいは公民館等の社会教育施設等に派遣して、広く市民の皆さんに語っていただくという事業だったんですが、残念ながらこの10年間、一度も語り部さんの出番がない。あるいは市民の皆さんが、そういう制度があって、申請すれば来て話していただけるんだという認識がないまま、この10年経ってしまった。</p> <p>今、子どもがこういうような事業を始めるにあたって、せっかくご協力いただく語り部の皆さんが登録されているんだらば、我々がインタビューして映像に残して、ホームページに貼ろうということで連絡したんですが、もうそのうちの半分ぐらいの方が亡くなっていました。また、我々がようやく連絡が取れて、協力できると言っていたら、スケジュールを入れようと思った瞬間に入院されたということもありました。そういう状況で、この10年のロスというのは大変大きいなと思っております。</p> <p>だけど、今ここで再度また始めようということで、ここからはお願いなんですけれども、市民団体の子どもがやっているだけというのは限界があります。あとは経費的な問題もあります。やはり市と協力する中で、今ここで市の助成金を少しいただきまして、取りあえずホームページを立ち上げることが出来つつあります。でも、ホームページというのは、これから来年、再来年と、ずっと取材しながら継続して内容を豊かにすることができるコンテンツです。そうすると、当然そこには人員も必要ですし、また、経費もかかってくる。じゃあ、この問題について、初年度は行政のほうに少し助成金をいただきましたけれども、これでおしまいなのか、また、ずっと市民団体が継続してやらなければいけないのか。他市の場合には、自治体が直営でこういうホームページを運営しているというというのが、結構多いんです。子どもは、全部自治体がやればいいというふうには考えていない。一緒にやるのが小金井の強みであるならば、子どもが今後続けるときにも、行政と一緒に手を携えて継続できるようなスキームを、人力的にも、経費的にも、ぜひ行政のほうに担保してくださいというお願いです。</p>	<p>戦争経験者の登録をしたけど、それが全く活用されていないというお話でした。つい先日の議会でも、実は同じような御指摘をいただいたところで、大変申し訳ありません。私も今回取り上げられて、初めてその実態を知ったところです。</p> <p>何ができるかということについては、議会でもすぐお答えできなかったのですが、今すぐにここでお答えはできませんが、重く受け止めさせていただきます。</p> <p>まず、その登録者をしっかり我々が管理ができてなかったということ、もしくは、そういった方のお話を聞きたい方がいらっしゃれば、呼んでお話を聞くことができますよという告知を市民に十分できていなかったこと、ここはやはり課題だと思いますので、その点も含めて、宿題として受け止めさせていただきたいと思っております。</p>
3	<p>平和事業について、おとし、小金井市から広島へ行く「平和行事参加の旅」に参加させていただきました。日頃、私自身も色々考えることがあったんですけども、原爆資料館を見たり、実際、リアルでいろんな方々の思いを聞かせていただいて、簡単に言えばとても良かったんですね。</p> <p>ただ、インパウンドの関係で宿代も高くなっていますし、とても人も多いですし、あとは、もし参加人数が多くなれば、市のお金も使うし、市の職員の方も同行いただくということで、開催するにも開催しないにも、残念がつくところがあるんですが、結論から言えば、続けてほしいなというのが私の願いです。ただ、より良く続けてもらうにはどうしたら良いかということに、私も答えはなかなか無いんですけども、毎回、5名から10名ぐらいの方が気持ちよく手を挙げてくださると良いなと思っております。同行していただく市の職員の方には、毎年御苦労をかけますけれども、ぜひ前向きに、これからも続けて開催してほしいと思います。</p>	<p>広島に行く平和の旅に御参加いただきまして、ありがとうございます。結論から言うと、やはり何とか続けたいなとは思いますが、ただ、さっき言った、この8月5日、6日というのが、もう大変混雑するし、すごく暑いし、行っても大変みたいなお話も聞きます。ここに行くというのは大事なんですけど、それも含めて、やり方については色々な工夫が必要かなと思っています。</p> <p>ちなみに、私自身は出身が大阪ということもあって、小学校の修学旅行で広島市の平和記念資料館に行っているんです。そのときの自分自身の体験は、非常にインパクトが強くて、すごく印象に残っています。子どもも、低学年だと結構ショックが大きいかもしれないんですけど、私は小学校6年生のときでしたので、あの頃に行ったということはすごく大事だったなと思っています。</p> <p>今、広島市さんのほうは、修学旅行で来てくださいという呼びかけをしております。物事が分かるという意味で、中学生ぐらいがもしかしたら一番いい時期なのかもしれませんが、子どもの頃に見たことは、私としてはすごい思い出です。ただ、東京のほうから広島まで行こうと思うと、行くだけでも1日潰れてしまう感じになってしまいますので、非常に悩ましいところではあります。小金井市として、じゃあ修学旅行に連れていけるかという、現実的な問題もありますし、そこは教育委員会の分野でもございますので、私のほうから行うという話ではできないんですけど、いずれにしても、現場を見て、広島に行って感じることは非常に大きいと思いますので、工夫をしながら続けていけるように、取り組んでいきたいと思っています。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
4	<p>先日、市でジェンダーに関するお集まりがあったと聞いているのですが、それに対して一部の方から、市のお金をそういうことに使うのはどうかという意見があったんです。平和の旅も、市の補助金が出ますので、市のお金を使うわけです。でも、平和というのは、目で見える戦争とか平和の「平和」だけじゃなくて、心の平和とかも同じぐらい大事だと思いますので、限られた予算の中になりますけれども、そういった事業をこれからも続けていっていただきたいと思いますので、お願いいたします。</p>	<p>ある一部の方が、SNSで、こういうことに市のお金を使うのはどうかという発言をされていたということも引用されていました。そういう声は多々あります。私としては、例えば市としての全体的な計画として、目指すべき社会をどうしていくかという方向性、その中に、様々な施策があって、事業というものが有りますので、決してそこにお金を使っているということについて、変なことには使っていないと私は考えております。</p> <p>最後におっしゃったことがすごく重要だと思っています。目に見える平和だけではなくて、「心の平和」というふうにおっしゃいました。日常生活を送る上においては、そこがやはり重要だと思いますが、昨今どうしても分断というか、少々言葉はあれですけど、ギスギスしたような、何かそういう社会的な風潮があるのというは、非常に残念なところなんですけれども、心の平和というものを大切にしていこうということは改めて大切だと思ったところです。</p>
5	<p>過去の戦争の痛みを我々は知るべきだって言うけど、過去の戦争と今の戦争は全然違うと思います。ウクライナとロシアの戦争にしたって、昔の大東亜戦争のときの戦法と、ウクライナとロシアの現代の戦法と、全然違うじゃないですか。だから、もう過去の戦争について言ったら、何の意味もない。</p> <p>よく平和、平和って言うけど、世界の歴史をこうやってずっと見ていると、戦争があって、その休憩として平和があって、また戦争が続く。平和と戦争っていうのはそういうものだと思うんですよ。戦争のほうが世の中の理想を表しているとも思うんですよ。</p> <p>小金井市に慰霊碑というのがありますが、多分にGHQの指示による日教組の影響が入っていると思うんです。日教組なんていうのはもう、GHQがつくったものですから、あんまり当てにならないんですよ。その歴史を勉強していただきたいと思うんです。</p> <p>それから、憲法9条があるから日本は平和だと言うけど、自衛隊の実力があるから他の国が手を出さなかつただけであって、自衛隊反対なんて言えるわけがないんです。自衛隊のおかげで、今の我々がこうやって会議開いたり、ご飯を食べたりできるんです。</p> <p>それからまた、命の貴さってことを誰か言ったけど、これは両面あって、命は泰山より重く鴻毛より軽しということが、昔から当然のように言われてきた。それを、昔からの伝統的な思想を全部打ち消して、平和だけを入れろ、敵が攻めてきたら逃げりゃいい、自衛隊にやらせればいいと。自衛隊の人は死ぬ覚悟ですよ。</p> <p>だから、そういうふうなことをいろいろ深く考えてくると、戦争は避けられないものであって、平和を訴えるって何なんですかと。我々の税金を何に使っているのか。そのところを市のほうでも考えてください。</p>	<p>ご自身のお考えというのは、そういうことだと分かりました。ただ、過去の戦争は、当然、私自身経験していないわけですけども、今、改めて、市長になったからというわけではないんですけど、特に40代に入ってから、いろいろな本を読んで、最近ですとNHKスペシャルとか、クローズアップ現代とか、バタフライエフェクトとか見たりしています。最近結構、過去の映像を基に検証するということが行われる番組が増えたという印象を受けています。</p> <p>なぜ太平洋戦争が起こったのかという事の経過は、もう大体、誰がどうい命令を下したのかも含めて、大っぴらになっています。やはり長きにわたって、軍事大国・日本としての当時の大義があったのかもしれませんが、結果的には、世界でたくさんの方々の命を奪うことにもつながり、また、日本でもたくさんの方々が亡くなるという、人の命を左右する出来事を国として行ってしまったということは、やはり反省すべきだと思うんです。</p> <p>おっしゃるように、戦闘の仕方が違っていたというのは、技術が変わりましたので、それは事実としてはあるかもしれませんが、できればそういった紛争というものは、無いに越したことはありません。自分の生きたい人生があるのに、国の動きによって、紛争によって、命を絶たされてしまう。それは大きな人権問題ですので、過去の、大きくも何千年と見てきた歴史の中で、確かに戦争が繰り返されてきておりますが、それが良いかと言われると、今の時代において戦争は当然起こってはならないし、起こしてはならないというふうには私は思っております。</p> <p>ですので、平和というと、ご自身のような御意見というものはあるかもしれませんが。そういった方がいらっしゃることも自体否定はしません。ただ、市としては、人の命が奪われる行為というものを許すことはできないという姿勢は、やはり貫いていかなければならないし、だからさっき言いましたように、過去、なぜああいう戦争を日本としてやったのかということ振り返ることは、過去から学ぶことだと私は思っておりますので、そういった観点からも継承していくというのは重要だと認識しております。御意見として承ります。</p>
6	<p>私は昭和20年、1945年の生まれで、戦争そのものは知りませんけれども、焼け野原とか、闇市とか、あるいは60年安保、70年安保、あさま山荘事件、全部リアルタイムで見ました。</p> <p>私なりに戦争ということを考えてきていますけれども、1つははっきり言えることは、戦争というのは巨大で、複雑で、矛盾に満ちた出来事だということです。非常に巨大で、複雑で、矛盾に満ちた出来事。これの本性をつかもうとしても、とても難しい。私自身、昭和16年以降のことをいろいろ調べていますけれども、調べれば調べるほど分からなくなります。ですからこれは、よほど昔風に言うと、ふんどしを締めて、息の長い活動をやっていかないと駄目だろうと思っています。</p> <p>1つだけ申し上げますけれども、今、GHQという言葉がちよっと出てきました。ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラムについて、多分皆さん御存じだと思いますけれども、GHQが戦後日本の言論統制をやった、そのシステムがWGIPですね。その影響は今でも非常に強く残っていて、戦争のことを調べようと思っても全然分からない。今、その辺の修正をやっている人がだんだん増えてきて、公式にはこういうことが言われてきたけれども、実際はこうだったというのが最近になってやっと明るみに出てきた。そういう地道なことからやっていったらどうかかなと思っています。</p>	<p>1945年生まれということで、大変、いろいろ御苦労されてきたのだらうと思います。私は1975年生まれで、いわゆる高度経済成長時代に生まれた、ある意味、あまり苦労していない世代です。一方で、就職氷河期で大変だったんですけれども。</p> <p>言っていたことは非常に含蓄のあることだと認識しております。安易に「戦争が起こったらこうだ」みたいなことを、軽々しく言えるとは思ってないんです。ただ大切なのは、多くの犠牲を出す事案や事件、戦争に至ったこと、これらはやっぱり反省しないといけないですし、それに至るまでの経過というのは、様々な国家間の交渉や、中にいる人たちのいろんな思いが複雑に絡み合っ、ああいう流れになっていったのだらうと思うのですけれども、これについて僕は専門家ではございませんし、いろんな本を読んだレベルのことで、こうだと語れるわけではないです。</p> <p>ただ、それだけの犠牲が出る戦争を、この国がやったこと自体は間違いのない話ですので、そこから学ぶことはあるのだらうと思うのです。なので、なぜそうなったかというところは考え続けなければならないし、おっしゃるのように、様々な調査や新しい情報は、確かに出てきていると思いますので、そういうことにもしっかり向き合うということが、まずは大事かなと思っています。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
7	<p>今、NHKがどうのこうのとおっしゃったけど、NHKと朝日新聞はどれだけ今の日本に害毒を及ぼしたのか。NHKと朝日新聞を見てるから良いでしょというおばあちゃんがいたけど、どうも古い人っていうのは、そういう考えがあるんですよ。読んだり聞いたりする価値がないと私は思うけど。</p>	<p>私がNHKと言ったから、多分そういうお話になったと思います。私の伝え方が不十分だったんですけど、何かだけを見ていれば良いとか、そういうつもりは全くございません。逆に、そういう御意見も私は大事だと思うのです。いろんな視点があって、いろんなものを見て、物事というのを考えていくということが大事だと思いますので、そういう意味で言うと、いろんなものに触れて、別の説を唱える人の話なんかも、やはり聞くべきだと思っています。そうやって自分なりの考えというのを構築していくことが大事だと思っていて、特に、歴史というものについては、何かだけ、その1つのものだけが事実ということはあり得ませんので、いろんなものをしっかり分析する目を持つということは、私は大切だと思っております。</p>
8	<p>私が平和について考える中で、2つだけ自戒を込めていつも思っている言葉がありまして、一つは短くて古い言葉、もう一つはちょっと長いけど新しい言葉です。 1個はすごく短いので読み上げますが、フランクリン自伝という中の言葉なんですけど、「理性のある動物、人間とは誠に都合のいいものである。したいと思うことなら何にだって理由をつけることも理屈をつけることもできるのだから」という言葉があるんです。これは戦争とか平和に限らず、いつも自戒の念を込めて、頭の中でつぶやいている言葉なんです。 あと、もう一つは、広島市の平和記念式典に、おとしに参加させていただいて、市長さんや知事さんのありがたい言葉があるんですけど、一番涙が出てきたのは、最後の子ども代表の言葉です。これは毎年行われているんですが、たまたま私が参加したから申し上げるのではなく、おとしの子ども代表の言葉が、私が日頃思っていることを全部代表している言葉なんです。それは以下のとおりです。 ～～～ 皆さんにとって「平和」とはなんですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合うこと。悪口を言ったりけんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。身近なところにも、たくさんの平和があります。 昭和20年（1945年）8月6日、午前8時15分。耳をさくような爆音。肌が焼けるほどの熱。皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と叫び続ける母親。たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のまちは破壊され、悲しみに埋め尽くされました。 「なぜ、自分は生き残ったのか。」仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。あれから78年がたちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。「生き残ってくれてありがとう。」命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。 私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。友達のよいところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。 今、平和への思いを一つにするときです。被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。 ～～～</p>	<p>お話いただきまして、ありがとうございます。</p>
9	<p>ちょっと発言しようか迷ったんですけど、今回、テーマを「平和」に設定されていて、その趣旨というのは、多分、世界平和的なお話だったかなというところで、自分の中で何を言おうかなというのを考えてきました。その上で、事前に平和というものの定義がどんなものかと検索してみたら2つあって、戦争とかがなくて、「世の中が穏やかなこと」というのが1個目で、2個目が、「心配事とかもめごととかがなくて、穏やかな状況」というのがありました。自分は2つ目の、心の平和だとか日常の中の平和というところで考えてきたものがあったんですけど、今回のテーマとはちょっとそぐわないのかなと思って、今回はこのぐらいの発言にしておこうかなと思います。 今回、大きな「平和」というくくりでのテーマがされたということもありますが、私は結構、タウンミーティングとかに参加したいなと思っはいるんですけど、なかなか日程が合わなくて参加できない中だったので、テーマ縛りがあると、なかなか発言したいなと思っはいるところがテーマにそぐわなくて、発言できないというところがあります。今回の趣旨とは違うところでの発言になっちゃうんですけども。テーマを絞らないでいただくと、いろいろ発言できていいなと思います。</p>	<p>縛っても良いし、縛らなくても大丈夫ですよ。自分の考えをお話しいただけたらと思います。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
10	<p>私は、たまたま今日日程が空いていたのと、テーマが決まっているということで、話しやすいかなと思ってきました。</p> <p>平和についてというのは、私はあんまり考えがまとまなくて、今日は皆さんの話を聞こうと思って来たんですけれども、ちょっと取り留めなくなりますが、幾つかお話しします。</p> <p>私は1965年生まれ、昭和40年前生まれで、もはや戦後は終わったという時期、まさに高度成長期に育ちました。まだ子どもの頃、新宿に行くとき小田急デパートの前で、傷痍軍人の人たちが、前に缶から置いて軍歌を歌って、自分たちが取り残されてしまったということを訴えておられるのをよく見ました。そこにやっぱり戦後の名残を見ました。</p> <p>私は、父が割と歳を取ってまして、この間亡くなったナベツネさんと同世代でした。二十歳で九州のほうの特攻基地で終戦を迎えまして、数か月後にふらりと東京に戻ってきました。でも、本人は全く詳しいことを語らず、私も分からないんです。ただ、海軍にいて、九州のほうの特攻基地にいたということで、親戚の話を総合するとそうなります。</p> <p>父は本当に語らなかつたんですが、戦後の混乱期に戻ってきてから、専門学校に行き、職を得て頑張っていたんですが、ちょっと酒に溺れるところもあって、酔うと特攻基地らしいところにいた時のことを話していました。とにかく食べるものがなくて、いつもお腹を空かせていて眠れなかつた。眠れないでいると、上官たちからはなぜか食べ物匂いがして、お酒の匂いもして、いろいろ笑いながらしゃべっていた。訓練中はとにかく殴られた。そういう話をしていました。</p> <p>私はそのときは本当に、酔っ払いは嫌なので、あんまりちゃんと聞いてなかつたんですけど、今思えば、二十歳であの混乱の時代に、戦後を生きたというのは本当に大変だったんだろうと思いますし、多感な時期に、やっぱり特攻に出て死んでいく人たちを見てきたんだと思いますので、その傷がどれだけ父に残っていたんだろうかと思わされます。</p> <p>私は「平和を」というよりも、戦争が嫌なんです。くだらないと思うんです。ただ、そういうくだらないことを、人類は繰り返して、繰り返して起こしてきて、もうそこが愚かなところだと思うんですけども、人間に少しでも知恵があるのであれば、全力で戦争を回避するべく努力するというのが、人間の人間たるゆえんではないかなと、そこは強く思います。</p> <p>私は最近、たまたまなんですが、東京ステーションギャラリーという東京駅の美術館で、フォロンという人の絵画展を見たんなんですが、その人が、世界人権宣言というアムネスティが作っている人権パスポートの挿絵を描いているのを知って、アムネスティに行ってもらってきました。谷川俊太郎さんが訳しています。第1条に、「私たちはみな、生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だからたがいによく考え、助け合わねばなりません。」とあります。</p> <p>そのほか色々あるんですけども、「ちいさな子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、わたしたちはみな自由に、安心して生きていける権利をもっています。」ですとか。あるいは、教育を受ける権利、文化的な生活をする権利を持っています、というようなことが全部書いてあるんです。小金井市も世界人権宣言についてアクションは起こしていると思うので、すごくそれはいいと思うので、ぜひ推進したいんです。そして、やっぱり平和とか戦争の問題で、人権というのをきちっと考えたい。私は幸せに生きていきたいし、家族も幸せでいてほしいので、そのために、絶対に戦争を回避するというのを努力していきたいなと。そこなんじゃないかなと思って、改めて人権ということをきちんと意識していきたいなと、平和について思いました。</p>	<p>市長からの回答等</p> <p>お父さんの話も含めて、非常にリアルなお話の一端をお話いただきました。</p> <p>私も、やはり人権に関わる問題だということを核にしないといけないなと思っているんです。御紹介いただいた人権宣言もそうですし、市としても、生まれながらにして自由であるということも含めて、一人一人の人権をどう守って持っているのか。そういう認識を持っているのか。そういう取組をやるべきだと思っておりますので、ちょっと改めて御意見を参考にさせていただきたいと思っております。</p>
11	<p>戦争に行った人で、帰ってきて一切戦争のことを語らなかつたという人は実に多いですね。ほとんどの人がそうだと言っているくらいです。戦争に行った兵隊さんたちが、帰って来て何も語らなかつた。一番戦争の悲惨さを知っている人たちがなぜ沈黙したんだろうかと。その人たちこそ、戦争の悲惨さを言うべきはずなのに、なぜ戦争に行った人たちは沈黙してしまったんだろうと。これはね、かなり重要な問いだと思いますので、考えてみたいなと思っています。</p>	<p>お話いただきまして、ありがとうございます。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
12	<p>私とほぼ同じ年の人がおばさんを原爆で亡くしてしまっていて、東京で暮らしていたんですが、仕事をリタイアして、今、広島の話り部になるべく、ひと月に1回とか、2週間に1回とかで、語り部講習を受けています。実際に体験した人の話を聞いて、それを語れるようにしているということですが、亡くなってしまったり、体調を崩したりと、すごく苦労しています。しかし、その彼の活動を見てると、やっぱり少しでも、戦争が悲惨であることを知っている人が、本当に僅かな記憶でもいいから、ちゃんとそれを意識して、そういう思いを次の世代にさせないよう最大限の努力をするということは、必要じゃないかなと思っています。</p> <p>そして、やっぱり8月5日、6日に行くというのは、私も前にそういうのを小金井市の広報で見て、行きたいなと思いましたが、もう暑さは殺人的だし、混み合っていますし、わざわざそこに行くのはむしろ嫌だなと思ったので、時期を選ばず、行きたいという人がいれば助成をするとか、そういうシステムに変えていくのもいいんじゃないかなと思います。</p>	<p>広島については、本当にそうなんです。8月6日に行く意義はあるんですけど、ただ、そこが引っかけって、我々としても、なかなかやり辛い環境があるということで、ここは課題として捉えないといけないと思います。広島に行くということ、それを支援するという、そこは必要で続けたいと思っておりますので、やり方についてはなお検討したいと思います。</p>
13	<p>最近感じていることです。ウクライナやガザの問題で、反対の声を上げる市民はいるものの、日常生活の中で改めて平和を語るだとか、平和を訴えるということが、特別なことになっているんじゃないかなと思っています。さらに言えば、平和を口にするのが、ちょっと恥ずかしいような、何かダサいような感じを持っている人もいるのではないかなという気がしています。</p> <p>今回、平和の日を決めて小金井で10年ということでもありますけれども、この10年間、もう少し市が積極的に、平和を追求する姿勢をアピールしてきてよかったのではないかなと思っています。今回、戦後80年ということで、催物を少し増やしたりもしていますけれども、ぜひそういう姿勢を、これからも継続していただきたいと思っています。</p> <p>数年前に書かれた平和の日の作文を、この間読み返してみたんですが、「平穏な日が明日も明後日も、変わらず続いていくと思える安心感。このような安心感が得られる状態を、私は平和と言うんだろうな」というような中学生の作文がありまして、これは特別賞を黒井千次先生からもらっているんです。特別賞というのはどのぐらいの内容の作文かなと思って、目にしたというのが、実は正直なところなんですけど、いや、中学生でなかなかしっかりした思いを書いています。こういうことを書く機会を、やっぱり市が作文というような形ででもつくっていることは、非常に大切なのかなというふうに思いました。</p> <p>ぜひこれからも続けて、市の平和を考えようという積極的なアピールをしていただきたいと思えます。</p>	<p>先ほども、平和の日条例を制定して10年間、せっかく語り部の方の登録があるのに、全く使われてないという御指摘もいただいています、これについてはしっかり反省をしなければいけない点があるかと思っています。積極的な姿勢でということで、御意見を重く受け止めさせていただきます。</p>
14	<p>先ほど、何で戦争体験をされた方が語らないのかというお話を伺いました。私、何年も前に、もう他界された方なのですが、俺は加害者なんだと言っていた方と話したことがあります。原爆投下で、日本人は被害者なんだという思いをすごく持っている面があると同時に、私は加害者なんだ、語りたくないとおっしゃったんですよ。</p> <p>あるアメリカの歴史学者が、日本人は原爆投下後に被害者であるという意識を強く持ったんだけど、同時に、加害者であるという意識を忘れたんじゃないかと言っていたんです。原爆を落とした側が何ということ言うんだと、私はそのとき頭にきたんですけども、その後、その方の話を聞いて、何だかちょっと複雑な思いになりました。</p> <p>これも取り留めのない話なんですけど、本当に科学的分析をすれば、この2つの原爆というのは許されないし、私たちに向かって、「I'm sorry」じゃなくて「We are sorry」と、オバマさん1人が心の中でつぶやくんじゃないかと、日本人はアメリカ人にお詫びしてほしいという気持ちがあるんですけども、それと同時に、やっぱり私たちの心の中に、どこかであの戦争で被害者であるというイメージが強くて、隣国に御迷惑をかけたという意識が年々薄れているのかなと少し感じました。戦争の体験を語らないという人の中には、ただつらいとか、言いたくないだけじゃなくて、その方は中国でとても言えないことをしたらいいんですけど、やっぱりそういう人もいるんだなと思ったところです。</p>	<p>お話いただきまして、ありがとうございます。</p>

	ご意見・ご感想等	市長からの回答等
15	<p>今、発言された、日本がともすると、さきの大戦で被害者意識ばかりで、一方で、中国とか、インドシナ等への侵略、加害の側面も忘れちゃいけないという御指摘をいただいたところですが、私も同感なんです。</p> <p>今回、冒頭で少し宣伝させていただきました、こがねいデジタル平和資料館の内容もそうなんです。が、あまり国内、つまり銃後の方のお子さんですか、女性の方、そういった皆さんの取材をしていきますと、当然、大陸等での加害の認識というよりは、自分たちが空襲の被害者ということで、怖かった、それから集団疎開で大変な思いをしたと、そういうような内容がずっと語られていて、当然、それも事実なので、私どもは今回のホームページに残しているのですが、一方で、加害の問題に関してどういふふうに扱うのかというところが大きな課題になっているんです。</p> <p>ところが、実際に軍隊経験者で、外地等に戦争歴があるような皆さんというのは亡くなられていて、私どもも協力者を非常に探したのですが、現時点ではなかなか見つからないのです。そうすると、国内の銃後のほうの、言うならば空襲等で逃げ惑った皆さんたちの証言ばかりがこのホームページにあふれるというのは、また少し、違うリードの仕方になってしまうんじゃないかとも思っています。</p> <p>そういう意味で、今後取材をしながら、加害の認識もしっかりとホームページの中で伝えていきたいなと思っているところで、今の加害の歴史認識、忘れちゃいけないという視点は、本当に私も同感です。</p>	<p>お話いただきまして、ありがとうございます。</p>